令和７年度
岐阜県DX推進コンソーシアム会員
アンケート 報告

2025年12月

調査概要

- 調査目的

  今後の岐阜県DX推進コンソーシアム事業実施にあたり会員のニーズを探りニーズに沿った活動の参考とするために全会員を対象にアンケート調査を実施した。
- 取得団体　岐阜県DX推進コンソーシアム
- 取得対象　岐阜県DX推進コンソーシアム会員346者
- 調査期間　2025年11月4日～2025年11月21日
- 調査方法

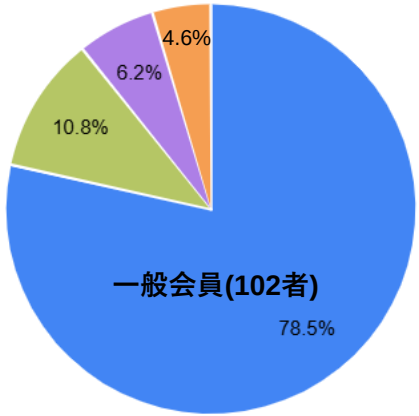
  電子メール・郵送→インターネット・Fax経由で回答収集
- 回答数

  有効回答数　130（回答率37.5%)

1.回答数

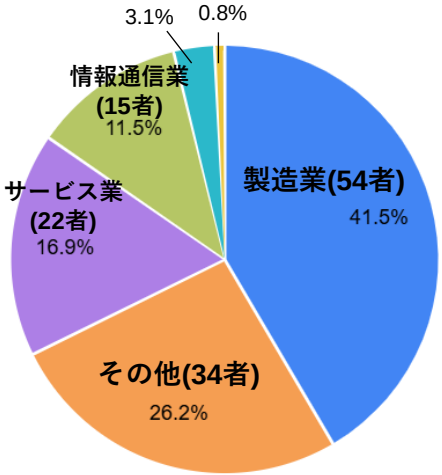
有効回答数：130（一般会員102）回答率　37.5%

会員区分



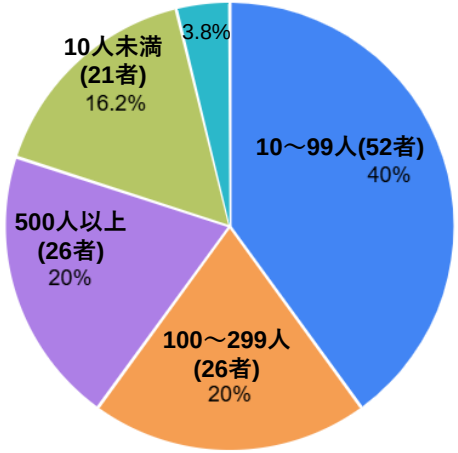
- 一般会員（法人・個人）
- 団体会員（業界団体・組合等）
- 学術会員（試験研究・教育機関）
- 行政会員（行政機関）

業種別



- 製造業
- その他
- サービス業
- 情報通信業
- 小売・卸売
- 運輸業

従業員数別

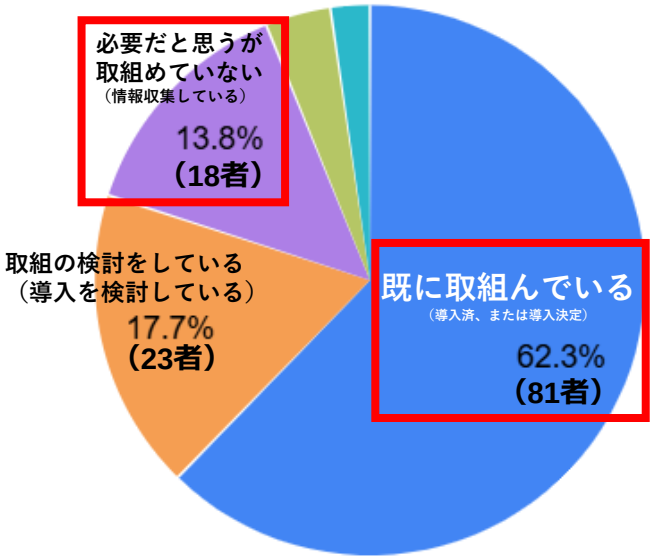


- 10～99人
- 100～299人
- 500人以上
- 10人未満
- 300～499人

2.DXの導入・活用の段階

『既に取り組んでいる』は微増だが、『取り組めていない』は減少しており、着実に取り組み企業が増えている

R7



	既に取組んでいる（導入済み、または導入決定）		必要だと思うが取り組めていない（情報収集している）	
R5年度	57.6%	-	22.2%	-
R6年度	60.5%	+2.9%	15.1%	△7.1%
R7年度	**62.3%**	**+1.8%**	**13.8%**	**△1.3%**

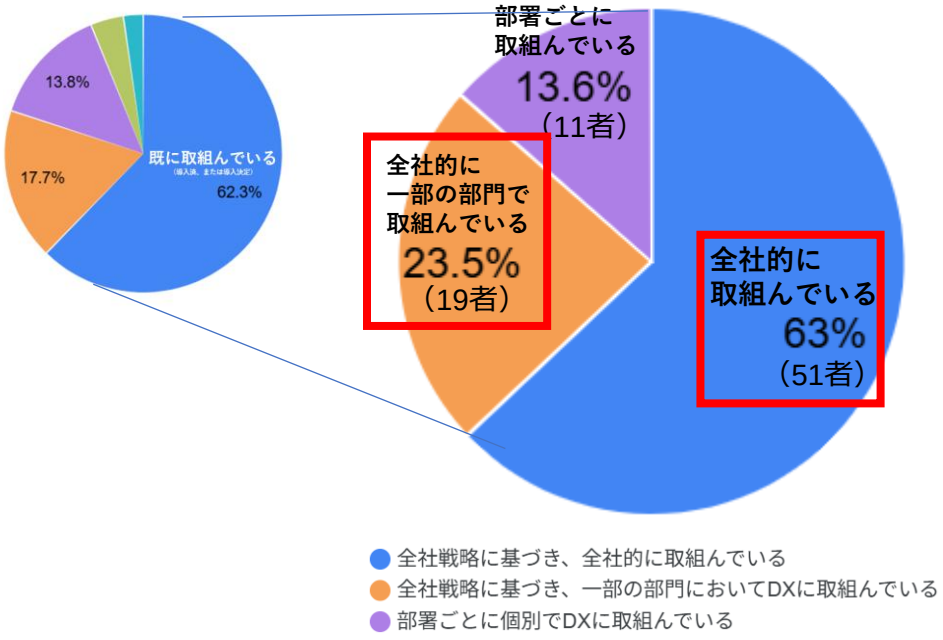
- 既に取り組んでいる（導入済み、または導入決定）
- 取り組みを検討している（導入を検討している）
- 必要だと思うが取り組めていない（情報収集している）
- わからない
- 取り組む予定はない

2-1. DXの取組状況と成果

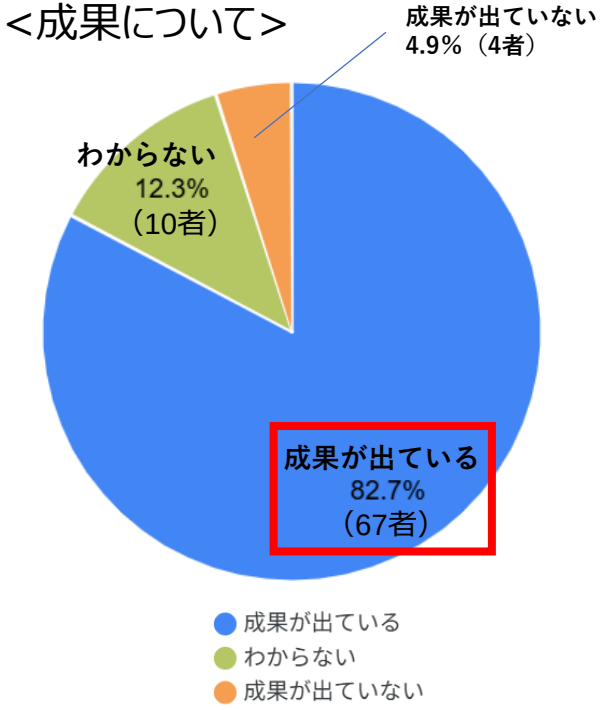
DXの導入・活用について「すでに取り組んでいる」と回答した81者

86.5%(前年度80.8%)が「全社的」「全社的に一部の部門」で取組んでいると回答
82.7%(前年度79.8%)が『成果が出ている』と回答

<取組状況について>



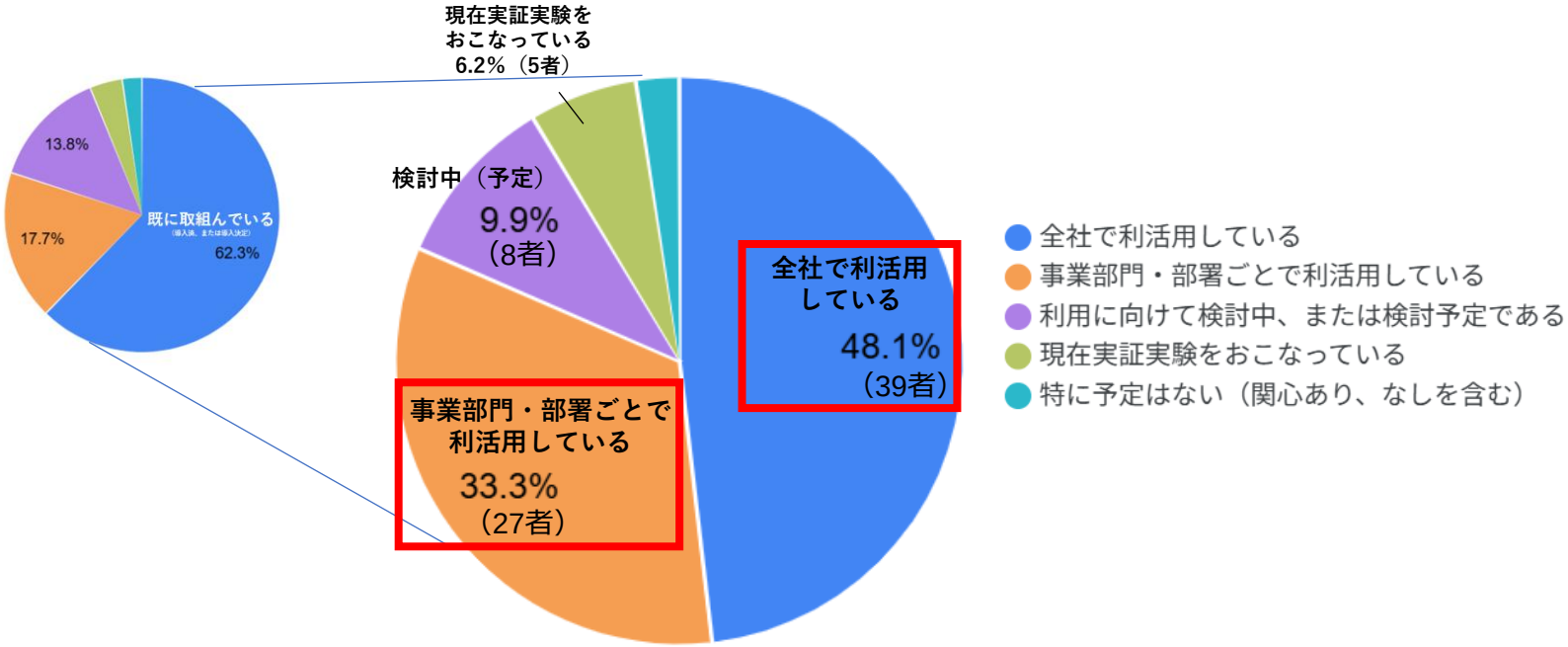
<成果について>



2-2.データの利活用状況

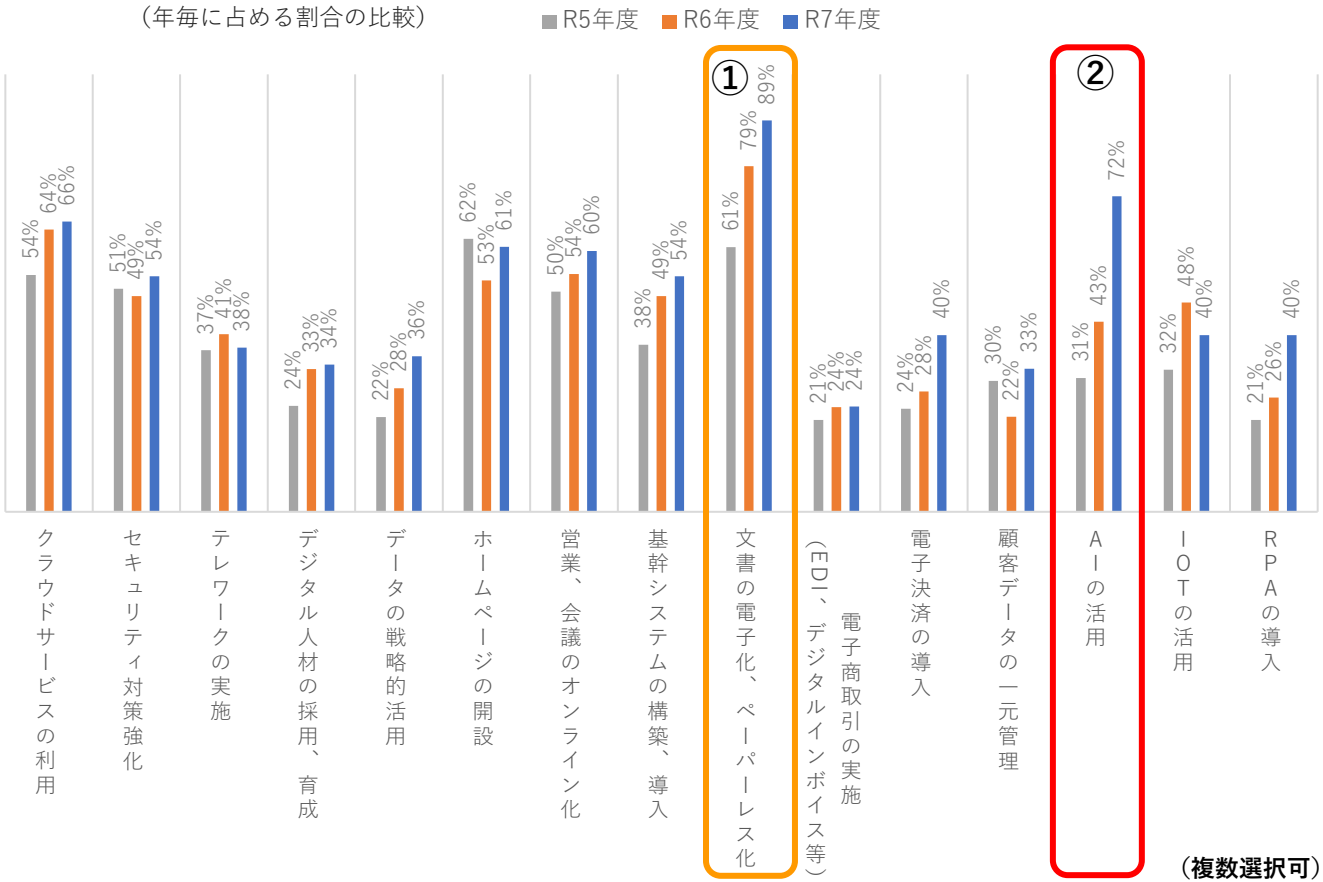
DXの導入・活用について「すでに取り組んでいる」と回答した81者

81.4%(前年度79.8%)で「データを利活用している」と回答



2-3. DXの具体的な取り組み内容

DXの導入・活用について「すでに取組んでいる」「取組を検討している」と回答した104者



R5，6年度との比較

① **文書の電子化、ペーパーレス化に取り組む会員が約90%に到達し、着実に進んでいる**

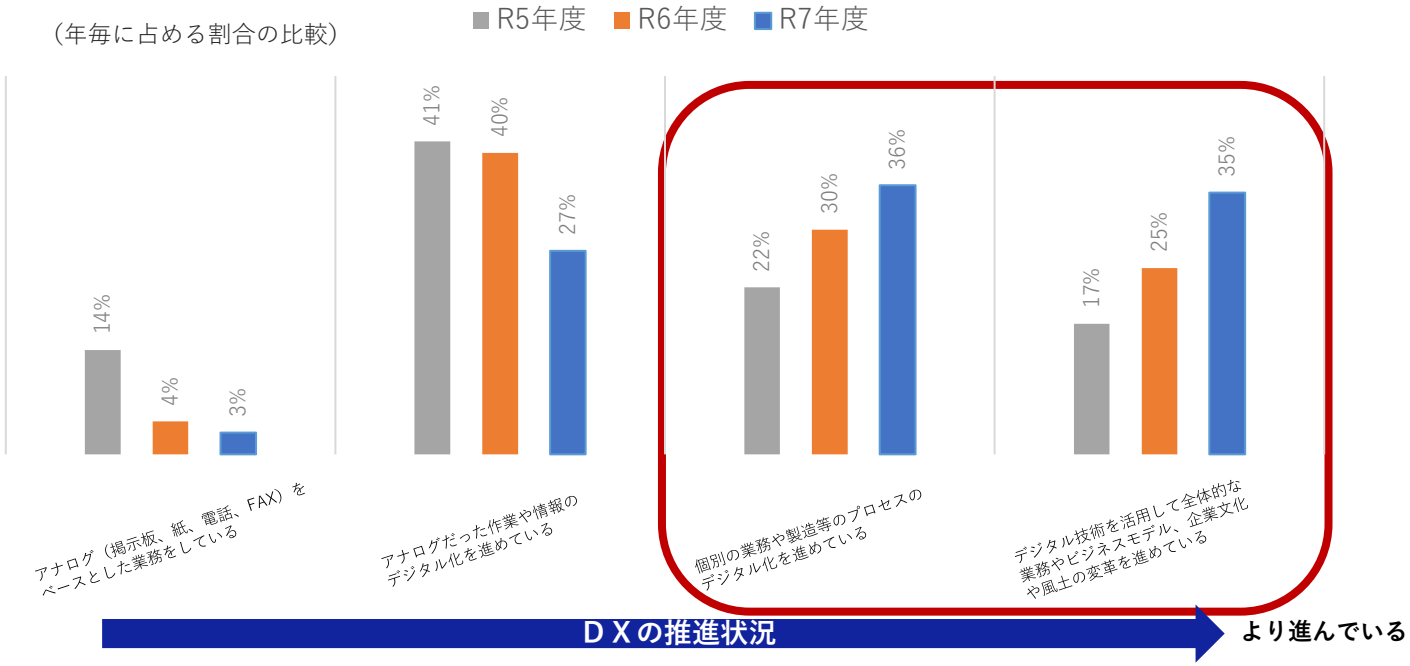
② **AI活用は前年度と比べ30%近く増え、AI活用が急速に進んでいる**

2-4. DXの推進状況

DXの導入・活用について「すでに取組んでいる」「取組を検討している」と回答した104者

R5，6年度との比較

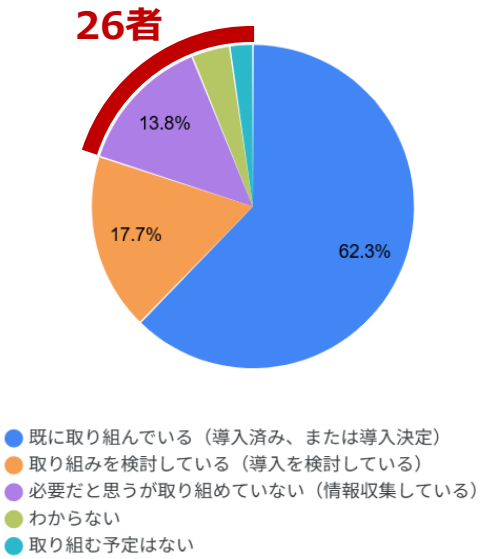
「個別の業務や製造等のプロセスのデジタル化を進めている」の取組や検討の段階が最も多く、増加中。
「デジタル技術を活用して全体的な業務やビジネスモデル、企業文化や風土の変革を進めている」段階の会員割合も増加しており、アナログ作業のデジタル化と変革が進んでいる傾向。

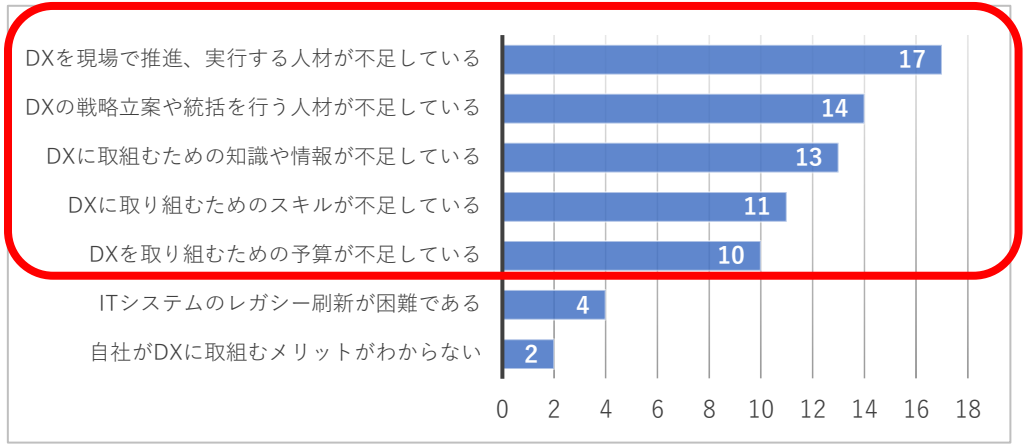


3.DXに取り組めていない、または取り組まない理由

DXの導入・活用について「必要だと思うが取組めていない」「取組む予定がない」「わからない」と回答した26者

人材・スキル・知識・情報・予算が不足していると回答



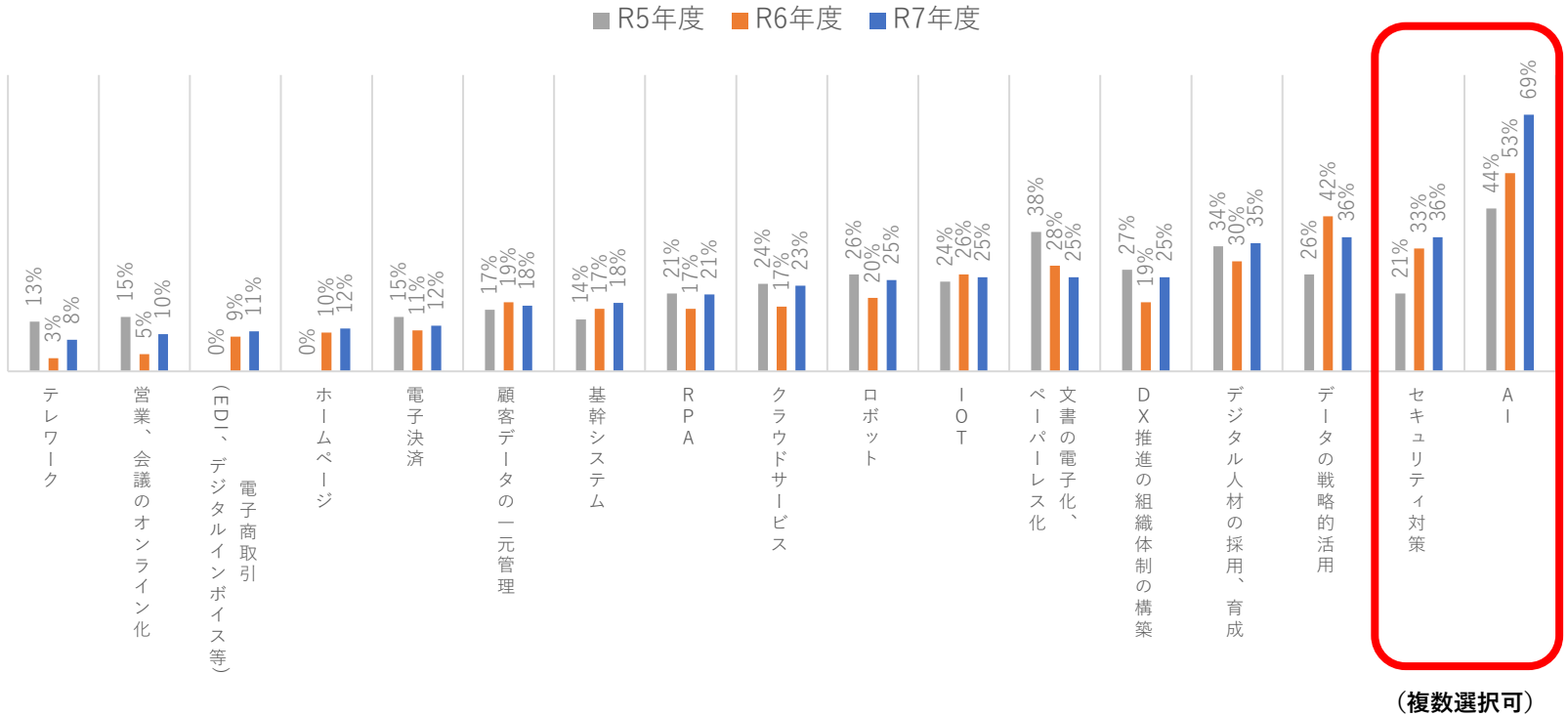


※その他3件

4.業務利用や導入を考えている(関心がある)項目

R5，6年度との比較

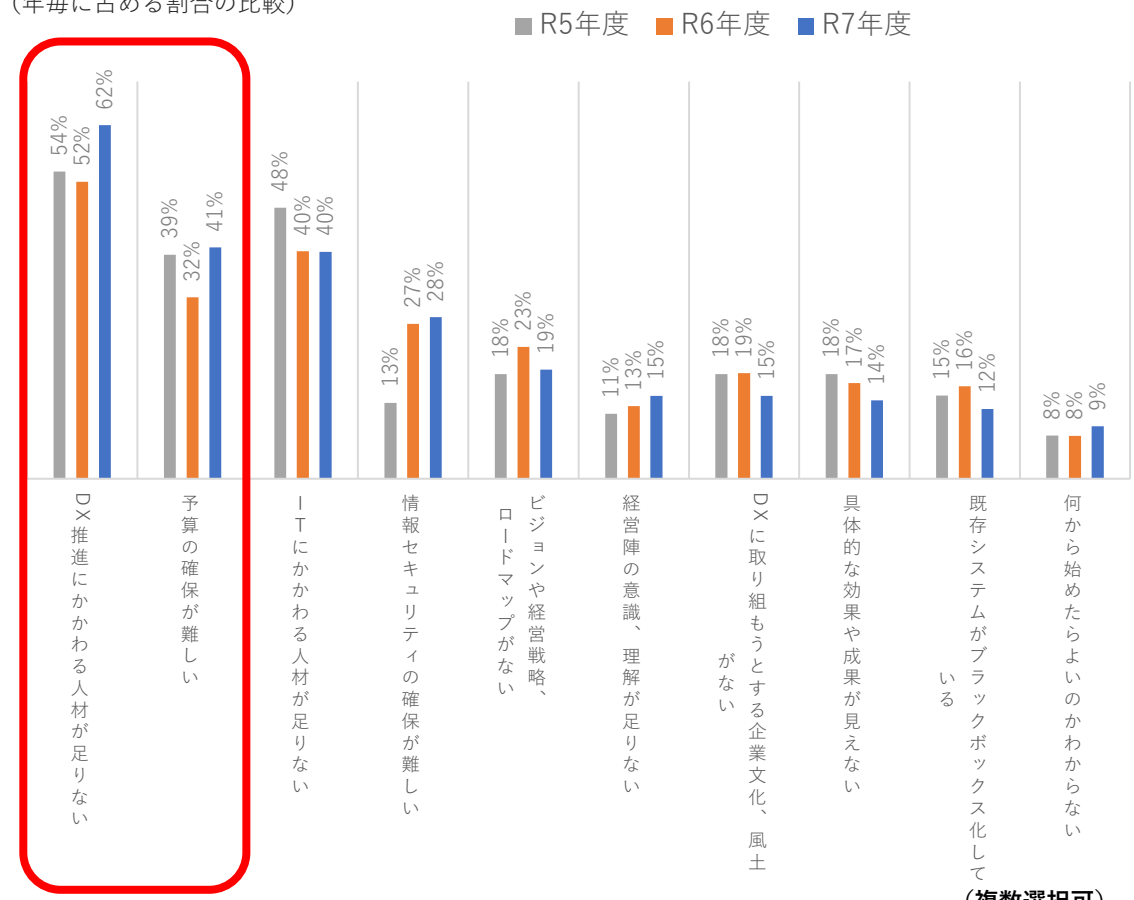
会員の関心の割合が最も高いのは引き続き、『AI』。前年比で15%程度上昇し多くの会員が関心あり。
『セキュリティ対策』も徐々に増加傾向にある。



（複数選択可）

5.DX（デジタル化）に取組むにあたっての課題

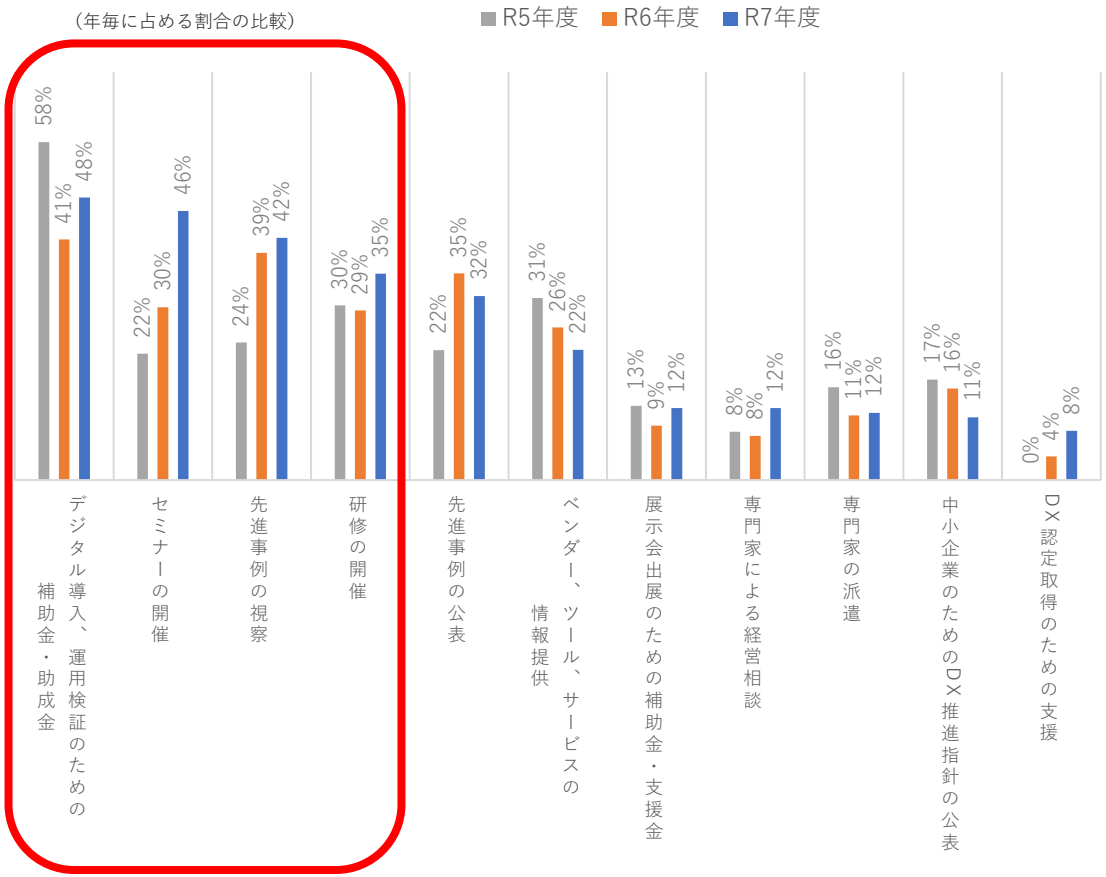
（年毎に占める割合の比較）



R5，6年度との比較

DX推進にかかわる人材不足への課題意識は前年に比べ10%増加。
また、予算確保に関する課題も増加している。

6.DXを進めるために活用したいと思う支援方法



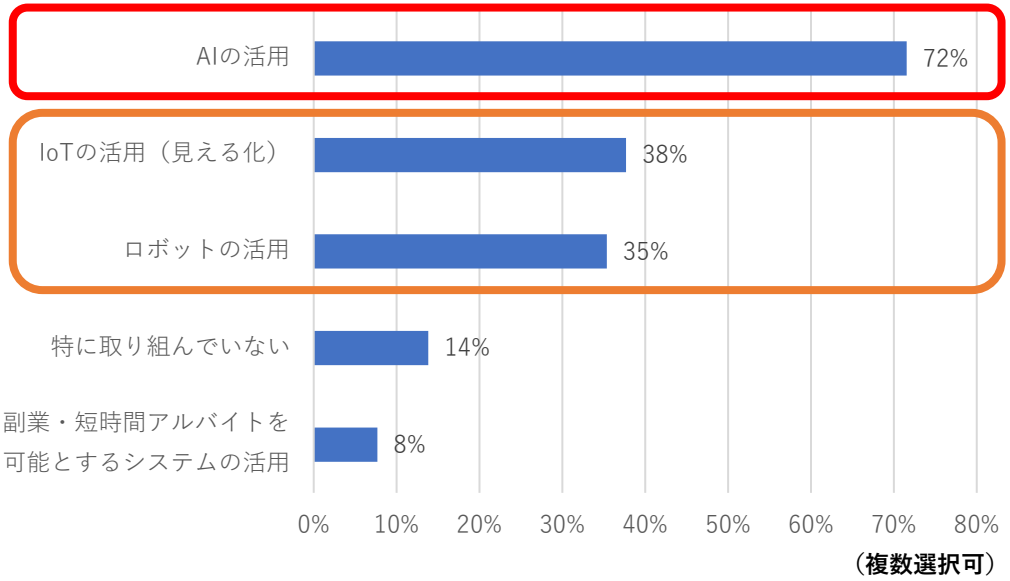
（複数選択可）

R5，6年度との比較

先進事例の視察、セミナー開催需要が増加しており、情報を欲している会員は多い。
また、人材育成の観点からか、研修開催も増加傾向。
補助金や助成金の要望も依然として高い。

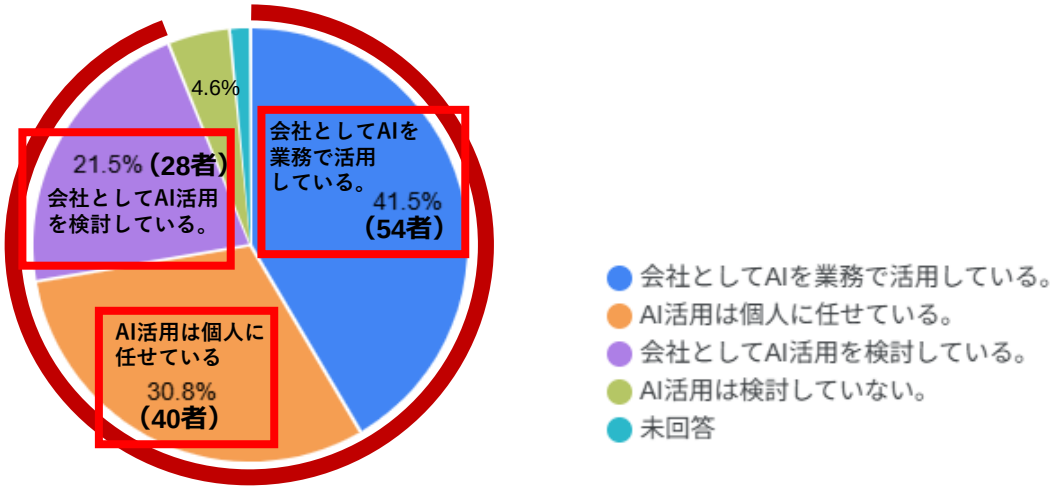
7.「人口減少社会」における労働力不足への対策として、デジタルを活用した方策

約70%の会員が『AIの活用』と回答。AIへの期待感が高い。
また、3割以上の会員がIoT活用、ロボット活用を取組み/検討している。
その他、勤務体系や雇用条件の見直しを検討している会員もあった。



8. AIに関する取り組み状況

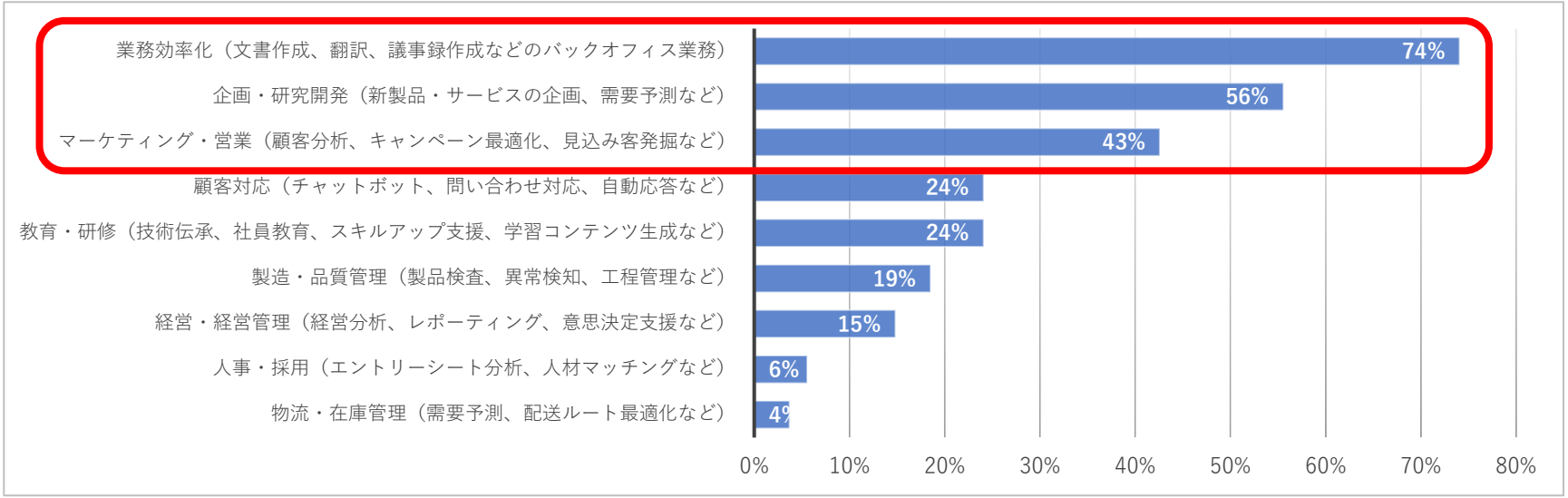
**70%以上の会員が何らかの形でAIに取り組んでいる。
また、検討も合わせると、実に90%超える会員が
業務でのAI活用を視野に入れている。**



8-1. AIの業務での活用状況

AIに関する取り組みについて「会社としてAIを業務で活用している」と回答した54者

文書作成や翻訳、議事録作成等の業務効率化に関する活用が最も多い。
また、企画・研究開発やマーケティング等への活用も進んでいる。

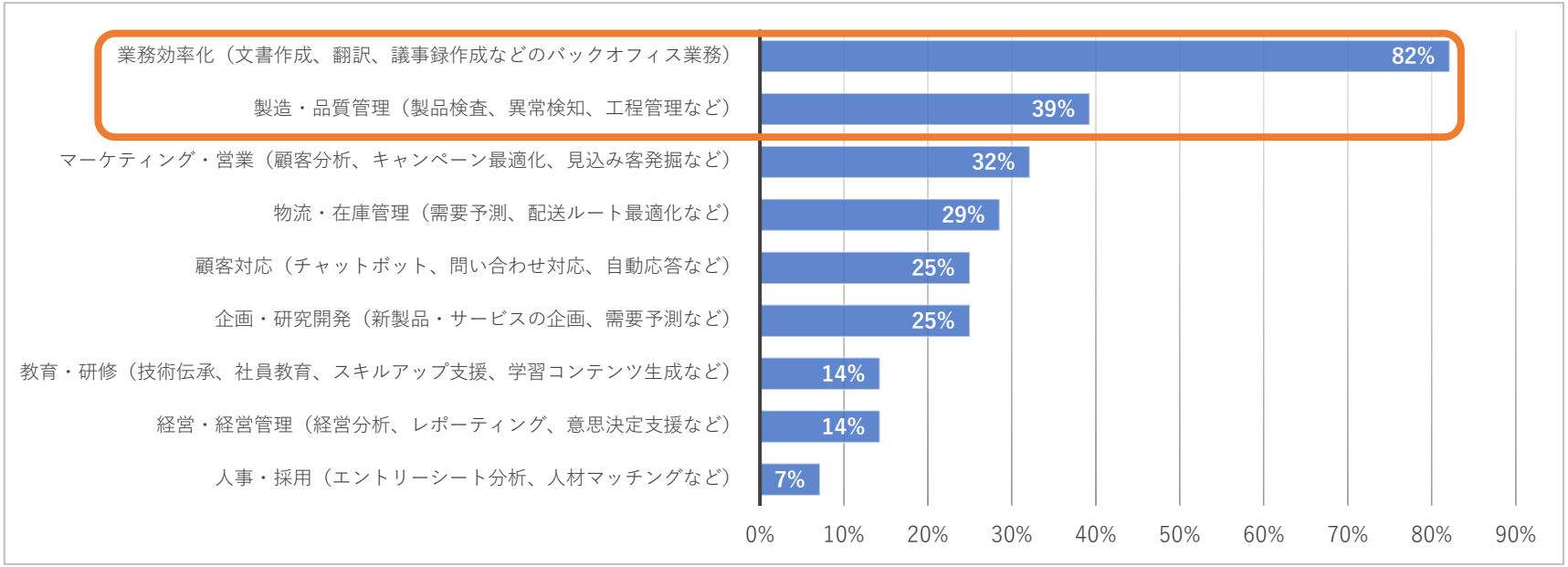


（複数選択可）

8-2.社内でAIを活用を検討している業務

AIに関する取り組みについて「会社としてAI活用を検討している」と回答した28者

今後の活用を検討している業務については、
業務効率化は依然として多いものの、
製造・品質管理への期待感も高くなっている。

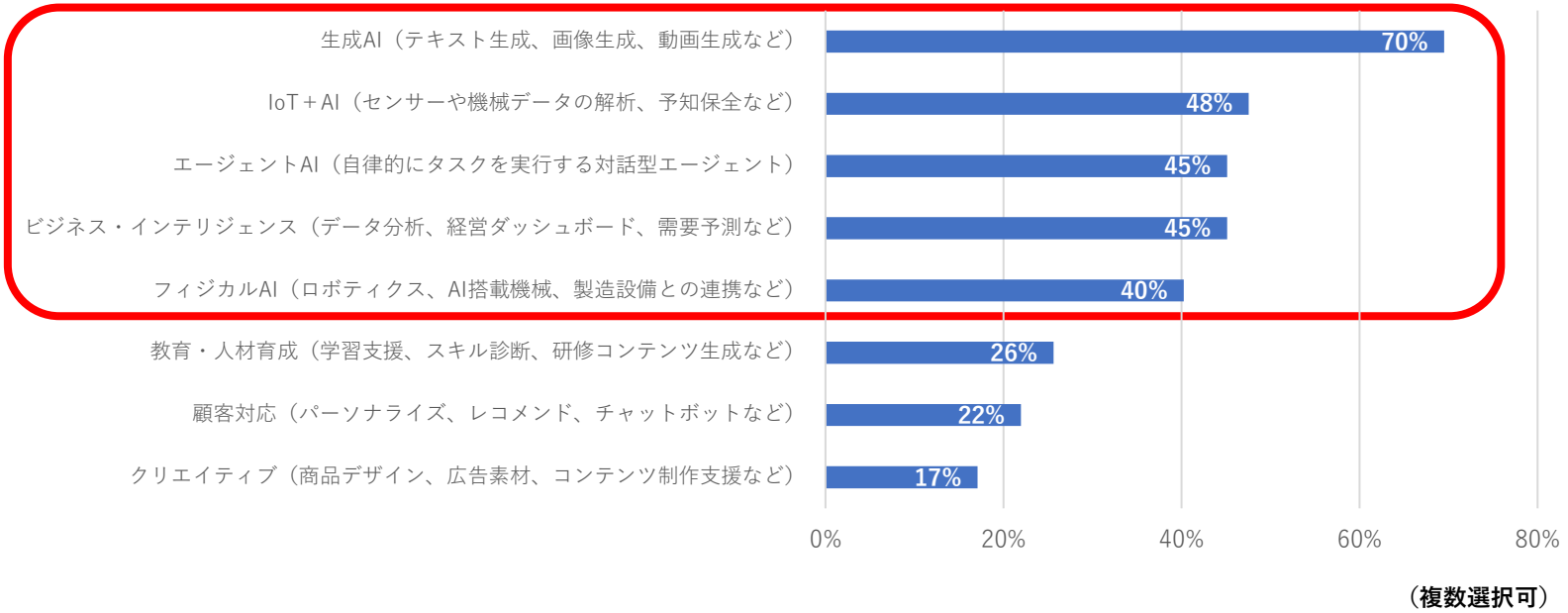


（複数選択可）

8-3.社内でAI活用を検討・関心のある分野

AIに関する取り組みについて「会社としてAIを業務で活用している」、「会社としてAI活用を検討している」と回答した82者

生成AIに続き、IoT＋AIやフィジカルAI等、
現場に直結するAIについても関心が比較的高い傾向。

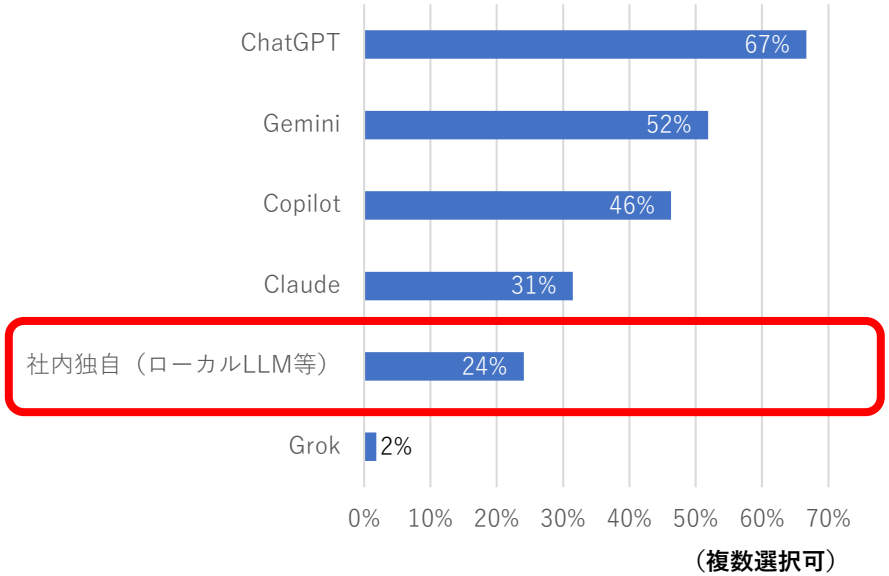


（複数選択可）

8-4. 社内で活用されているAIサービス

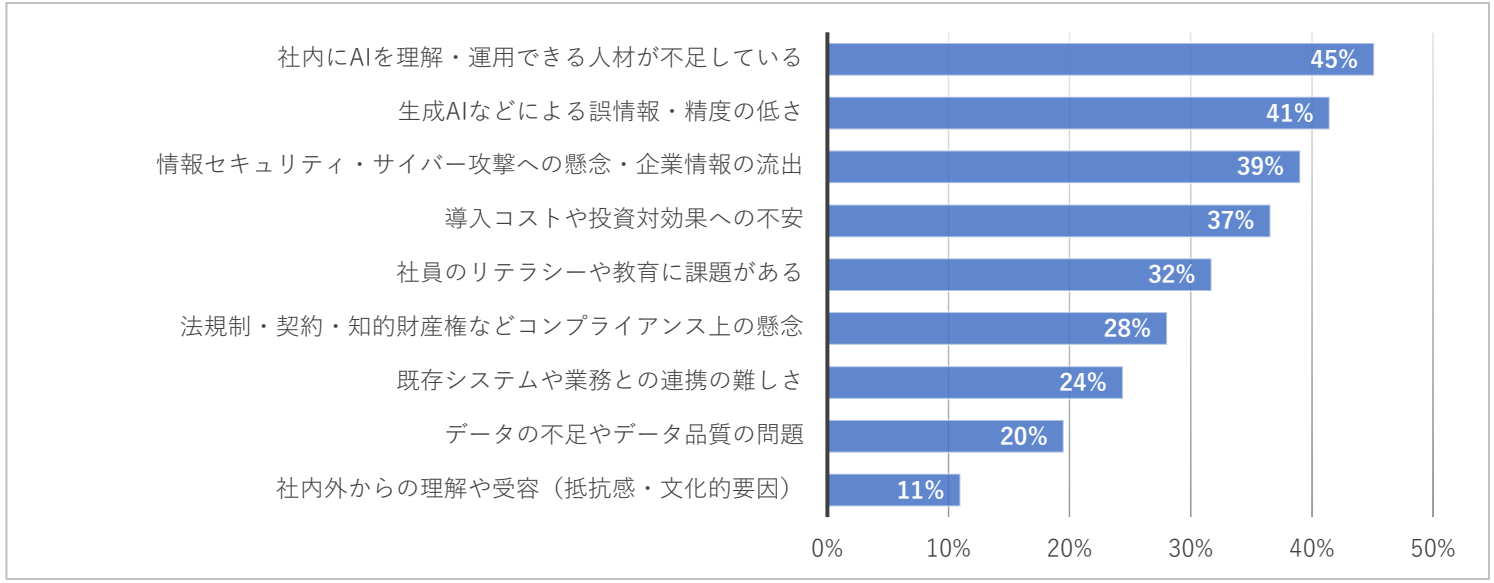
AIに関する取り組みについて「会社としてAIを業務で活用している」と回答した54者

利用しているAIはChatGPT、Gemini、Copilot、Claudeの順で多い。
社内独自AIを活用する企業も2割程度みられ、
ChatGPTやCopilot等の外部サービスに限らないAIの活用も行われている。



8-5.社内でAIを活用する上で、課題や不安な点

AIに関する課題や不安は、人材不足、情報精度、セキュリティの順に高い。
社内外からの理解や受容といった課題は比較的少ない傾向。

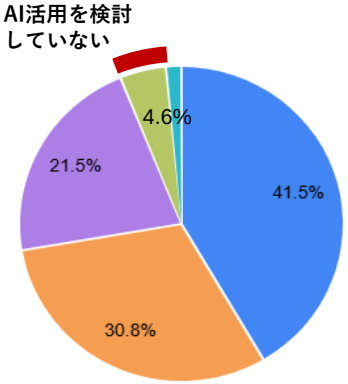


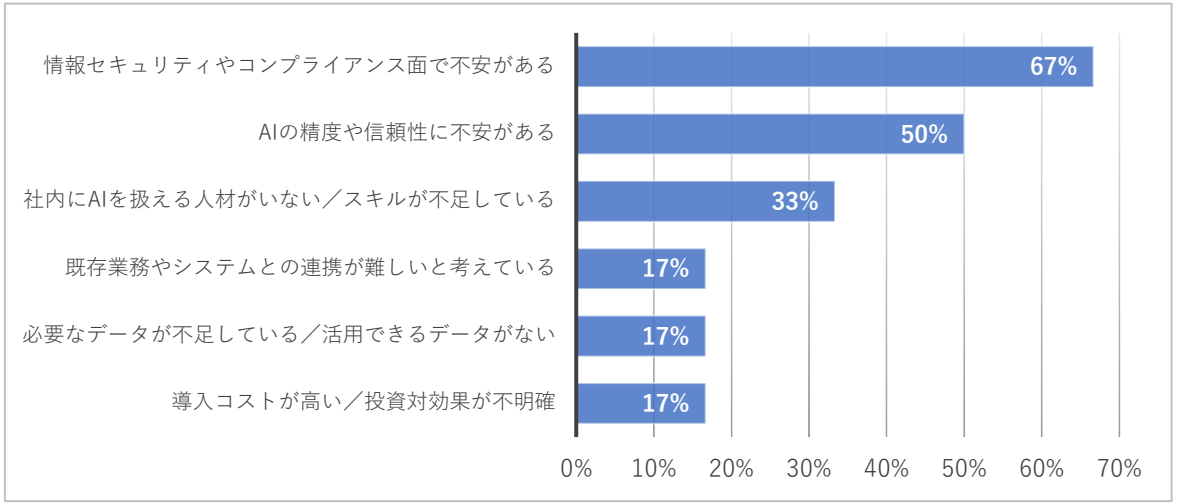
（複数選択可）

8-6.AI活用を検討していない理由

AIに関する取り組みについて「AI活用は検討していない」と回答した6者

セキュリティ・コンプライアンス面での不安や、AIの信頼性についての不安がある傾向。





（複数選択可）